

業界初の SDV 成熟度フレームワークが、自動車業界に 明確な基準と加速を促す

- 4つの成熟度フェーズにより、自動車メーカー、サプライヤー、パートナーは進捗をベンチマークし、次世代体験に向けて戦略的に前進可能に

2025 年 11 月 17 日

アムステルダム マッピングとテクノロジーのリーディングカンパニーである HERE Technologies は、テクノロジーアドバイザリー企業 Omdia による独立調査を基に、自動車業界初のデータ駆動型「[ソフトウェア定義車両（SDV）成熟度フレームワーク](#)」を発表しました。自動車メーカーは、断片化した SDV 開発アプローチにより高コストの失敗や事業の持続可能性へのリスクに直面しています。本フレームワークは、急速に進化する SDV 領域において、進捗を評価し戦略的意思決定を行うための業界初の共通言語を提供します。

SDV 成熟度フレームワークは、新規テクノロジー企業の参入によるイノベーション加速、消費者期待の高まり、そして自動車メーカーが協業を迫られる中、業界標準を統一する役割を果たします。HERE と Omdia は、自動車業界の進化を推進する取り組みとして、本フレームワークを SAE ITC に引き渡し、正式な分類体系としての採用を検討します。

明確なロードマップ：業界の現在地と未来

本フレームワークは、ハードウェア中心の車両からソフトウェアファーストのモビリティプラットフォームへの進化を、北米・欧州・アジアの 647 名の自動車専門家へのグローバル調査に基づき、4つのフェーズで定義しています。

- **フェーズ 1：Connected（2026-2027 年に普及）**
基本的なコネクティビティのみでユーザーベネフィットは限定的。収益は従来の車両販売に依存。
- **フェーズ 2：Augmented（2027-2030 年に普及）**
ADAS 機能や OTA アップデートによるインフォテインメント強化で初めて顧客価値を提供。フリートソリューションによる収益多様化の始まり。
- **フェーズ 3：Adaptive（2030-2035 年に普及）**
ソフトウェアファーストへの転換点。ライフサイクル全体で機能を進化させる車両へ。サブスクリプションやデータ収益化がピークに。

- **フェーズ 4：Agentic（10 年以上先に普及）**

完全なデジタルライフサイクル統合と予測型体験。OEM はモビリティサービスプロバイダーへ進化し、収益はモビリティを超えエコシステム全体に拡大。

HERE Technologies SVP、Automotive Solutions 責任者 Remco Timmer 氏のコメント：

「自動車メーカーはソフトウェア駆動の未来という明確なビジョンを共有しています。本フレームワークは、業界に共通言語と実践的なロードマップを提供し、戦略を整合させ協業を促進することで、革新的なモビリティ体験を迅速に実現し、OEM が差別化と新たな収益源を獲得できるようにします」

業界の野心と消費者期待の橋渡し

本フレームワークは、技術的進歩のベンチマークにとどまらず、消費者の信頼、データプライバシー、そしてデジタルライフスタイルとのシームレスな統合といった要素の重要性にも対応しています。これらの要素は、購買意思決定やブランドロイヤルティにますます影響を与えています。AI、OTA アップデート、ゾーナルアーキテクチャが自動車イノベーションの中心となる中、SDV 成熟度フレームワークは、OEM やサプライヤーが戦略や投資を、未来の車両を形作るテクノロジーに合わせるためのロードマップを提供します。

価値創出と競争優位性の進化

OEM と顧客にとっての価値創出は、各フェーズで進化します。初期段階では運用効率と安全性が中心ですが、後期フェーズではデジタル価値、パーソナライゼーション、新たなビジネスモデルへと移行します。業界がプロプライエタリなサイロからオープンで協調的な開発へ移行することは、SDV イノベーションの重要な推進要因です。フェーズ 1 および 2 では顧客価値や投資収益は限定的ですが、これらのフェーズはフェーズ 3 以降で大きなメリットを解き放つために不可欠です。

地域別の準備状況：顕著な差

中国および APAC の OEM は、オープンサプライヤーエコシステム、OTA アップデート、デジタルエンジニアリング環境といった基盤機能の導入を加速しています。グローバル調査に対する OEM の回答から、SDV の準備状況には地域ごとに大きな差があることが明らかになりました。

- **オープンエコシステムのパートナーシップ**

-APAC の OEM の 70%が、フェーズ 3 までに導入予定

-欧州の OEM の 50%以上、北米の OEM の 35%は、フェーズ 4 以降まで導入を見込まず

-APAC の OEM の 20% は、フェーズ 1 からオープンエコシステムを優先事項と認識

- **デジタルエンジニアリング環境**

-中国の OEM の約 90% が、フェーズ 3 までに導入予定

-中国の OEM の 30% 以上は、フェーズ 1 から導入を開始

-欧州および北米の OEM の半数以上は、フェーズ 3 または 4 まで導入を延期

これらの積極的なタイムラインは、中国および APAC における根本的に異なるマインドセットを反映しています。SDV ネイティブ企業は、開発サイクルを圧縮し、車両イノベーションをゼロから再構築しています。

パートナーシップエコシステムと協業

高度な SDV フェーズでの成功は、プラットフォームの共同開発、サプライヤー統合、エコシステムのオーケストレーションに依存します。HERE、AWS、業界パートナーによる最近の協業「SDV Accelerator」は、OEM が SDV エコシステムの価値をあらゆる段階で最大化するための実践的な設計図とリソースを提供する取り組みの好例です。

Omdia シニアプリンシパルアナリスト Maite Bezerra 氏のコメント：

「自動車業界の断片化した SDV アプローチは、不要な複雑性、リスク、財務損失を招いています。当社の SDV 成熟度フレームワークは、成功には技術だけでなく、組織変革と戦略的協業が不可欠であることを示しています。初期フェーズではリターンが限定的ですが、これらの基盤を飛ばすとコストは指数的に増加します。本フレームワークは、不確実性を排除し、戦略的意思決定を行うためのエビデンスに基づくロードマップを提供します」

SDV 成熟度フレームワークの詳細および完全版レポートはこちら：

www.here.com/here-omdia-sdv-maturity-framework

調査方法

2025 年 7 月、Omdia はカナダ、米国、英国、フランス、ドイツ、シンガポール、日本、中国にわたる 647 名の業界専門家を対象に包括的な調査を実施しました。回答者は北米、欧州、アジアで均等に分布し、自動車エコシステム全体（OEM、ティア 1、ティア 2 サプライヤー）を幅広く代表することを目指しました。本調査は、従来の自動車専門知識と、SDV 実装に不可欠な新興テクノロジーの視点を組み合わせ実施されています。結果は現時点での見解を反映しており、将来の有効性を保証するものではありません。

りません。

メディアお問い合わせ先：

HERE Technologies

Jordan Stark

+1 312 316 4537

jordan.stark@here.com

HERE Technologies について

HERE Technologies は、マッピングとロケーションテクノロジーのグローバルリーダーです。1985 年に世界初のデジタル地図を発表して以来、40 年にわたり業界を牽引し、世界のトップ企業のイノベーションを支えてきました。最新かつ豊富な統合マップと多様なソリューションを通じて、モビリティの未来を共に創造します。詳細は <https://www.here.com> をご覧ください。

Omdia について

Omdia は、Informa TechTarget, Inc. (Nasdaq: TTGT) の一部であるテクノロジー調査・アドバイザー企業です。深い市場知識と実践的なインサイトにより、企業の成長戦略を支援します。